

令和5年度 大阪府立槻の木高等学校 第1回学校運営協議会

令和5年6月17日 10:00~
大阪府立槻の木高等学校 会議室

委員

会長 渡辺 将史(本校PTA会長)
副会長 安田 信彦(高槻市立第一中学校校長)
委員 浅田 良一 田中 隆夫 宮坂 政宏 山本 冬彦

事務局

青竹 二郎(学校長) 水井 理弘(事務長)
小川 大樹(教頭) 小西 久美子(首席) 江菅 純一(首席)
川代 恵子(学校運営室長) 岡田 英次(学習指導室長) 井上 公彦(生徒指導室長)

本日実施している、「土曜講習の見学」および「学校説明会の見学」

次第

1、開会

委員紹介
学校長挨拶
会長挨拶

2、令和5年度 学校経営計画及び学校評価についての説明(青竹 二郎)

- ・めざす学校像について。
- ・中期的目標について 一部、昨年度からの変更点説明

3、スクール・ポリシーについて

- ・昨年12月16日に教育庁に提出したスクールミッションについては、「普通科単位制の高校として」を追記し、委員から承認
- ・スクールミッションをもとにスクールポリシーへと繋がる部分(グラデュエーション・ポリシー カリキュラムポリシー アドミッションポリシー)の説明

4、協議

各委員会からの意見

- ・この学校は規律ある進学校であるので、この方針を続けてほしい。
- ・スクールミッションの中に「槻の木高校らしさ」をもう少し前面に出してほしい。
- ・「規律のある」の説明をもう少し示してほしい。
- ・「グローバル社会で活躍する」についてはどの高校でも言っているので、槻の木らしさが見えてこないと思います。
- ・学校経営計画の「家庭の学習時間」、「遅刻者数」、「進路実績」については、もう古い。槻の木らしいもの、新しい index を作ってほしい。
- ・アドミッションポリシーでは、槻の木高校の生徒は、コツコツ勉強するタイプが向いている。まじめな生徒が、ある瞬間に学力がぐっと伸びる生徒が多いような気がする。
- ・総合的な探究の時間や主体的な体験、生徒会活動の記載が少ないのでもう少し付け加えるとよい

事務局の回答

- ・アドミッションポリシーについては毎年変更できますが、「当たり前のことを当たり前」は「学校側の当たり前」と「生徒側の当たり前」が一致しないといけません。「当たり前でないことも当たり前」になってほしいと考えています。今年すぐには実行できないかもしれませんが、キーワードなどを頂戴しながら考えていきたいと思えます。

委員の質問

- ・「学校外の学びを推進し・・・」この「学校外の学び」とは何を実施していますか

事務局の回答

- ・毎年ボランティア清掃（高槻城公園や老人ホーム周辺での清掃）をしています。公園での清掃中は、老人ホームの利用者や近所にお住まいのお子さんを連れた方との交流など生徒にとってもいい交流の機会になっていると思います。

委員の質問

- ・入試倍率が 1.02 倍でしたが、槻の木はそれ程、倍率が高くないと感じるのですが、その原因はどうお考えですか

事務局の回答

- ・本校は 240 人募集ですので、少しの人数変動で倍率が大きく変化します。隔年変化で起こっているため、来年度は倍率が戻るのではないかと考えています。また、大きな流れで言いますと、私学の無償化（公私比が七対三から六対四）もあります。しかしながら、倍率が下がったからといって、本校の路線変更は考えるべきではない。生徒の多様化ということもあるので、アドミッションポリシーに書いている生徒に来てほしいと考えています。本校の魅力は学校説明会を通して、もっと広げていきたいと思えます。

委員からの質問

・この学校は進学実績ではなく、「校風」と「勉強システム」が魅力です。

入学後に「どうして槻の木高校を選んだ」というようなアンケートはとっていますか

事務局の回答

・入学した段階でアンケートを取っています。また、保護者の思いについても書いていただいています。

この内容については本校の教職員も読んでいます。また、学校説明会にお越しいただいている保護者にもお伝えしています。

委員からの感想(委員の意見を聞いて)

・「規律のある学校」で委員の意見を聞いていて思ったのですが、自由ということについてちょっと考えてもいいのではないのでしょうか。自由というルールの中でいろいろ工夫しながら、それぞれ行動していけばいいのではないのでしょうか。「ルールが厳しいから個性を發揮してはいけない」のではなく、「ルールの中で個性が發揮できたらいい」ことに生徒は気付いてほしい。先日子供が大阪城野外音楽堂で行われた、全国大会の軽音の演奏会をみて、感じたのですが、生徒たちは何かに縛られることなく、自由に演奏出来ていたと思います。

・槻の木高校の入試倍率は全国大会に出場しているダンス部など部活動をもっとアピールすると上がるのではないと思うのですが、しかし、部活だけして、勉強はしない生徒が入学するのはよくないので、両立することが、やはり大事になっていくのかなと思います。

委員からの感想

・この学校の良さをどのように表現して伝えていくか。「原石を宝石に」ではなく「原石から宝石へ」と生徒主体に変えた方が伝わりやすいのではないのでしょうか

・礼儀作法や規範のことはしっかり指導されていると思います。

海外研修のことを書かれていますが、「日本の文化は何か」ということをしっかりと勉強してほしいと思います。外国の方は自国のことをしっかりと答えられるのですが、日本人は「自国のことをうまく答えられません」そのことを考えられる生徒になってほしい

・私は初めて学校運営協議会に参加しましたが、委員、先生方から、様々な意見を頂戴して、非常に勉強になりました。ありがとうございました。

小川教頭

・本日はありがとうございました。

次回は10月21日に実施予定。